

【認知症対応型共同生活介護 用】

1. 第三者評価概要表

作成日：平成21年12月25日

【評価実施概要】

事業所番号	2870801236		
法人名	社会福祉法人 明進会		
事業所名	たるみグループホーム		
所在地	(〒 655-0892) 兵庫県神戸市垂水区平磯4丁目5-13		
	電話	078-707-5888	
評価機関名	特定非営利活動法人 ライフ・デザイン研究所		
所在地	兵庫県神戸市長田区萩乃町2丁目2番14-703号		
訪問調査日	平成21年10月9日	評価確定日	平成21年12月25日

【情報提供票より】 [平成21年9月1日 事業所記入の同書面より要点を転記]

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月1日		
ユニット数	3ユニット (利用定員…計27人)		
職員数	27人	(常勤19人)	(非常勤7人) / 常勤換算22.8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り
	地上5階建て建物の3階～5階部分

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000～50,000円	その他の経費(月額)	30,000円	
敷金の有・無	有り (300,000円)			
保証金の有・無 (入居一時金含む)	無し	(保証金有りの場合) 保証金償却の有・無		
食 材 料 費	朝食	300円	昼食	400円
	夕食	600円	おやつ	200円
	または、1日あたり			

(4) 利用者の概要 (平成21年9月1日 現在)

利用者人数	計27名	… (男性4名)	(女性23名)
要介護1	4名	要介護2	8名
要介護3	9名	要介護4	2名
要介護5	4名	要支援2	0名
年 齢	平均86.2歳	… (最低74歳)	(最高99歳)

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	神戸徳洲会病院 神戸掖済会病院 舞子台病院 武村内科 杉本歯科クリニック
---------	--------------------------------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームはJR・山陽「垂水」駅南口から徒歩3分程度の利便性の良い場所に在る。建物1階は保育園、2階はデイサービス(通所介護)事業所となっており、幼・老の一体化した取組みも多く提供されている。地域のボランティアとも積極的に交流しており、「手話サークル」、「音楽サークル」、「フラワーアレンジ」など多彩な内容の受入れを行い、楽しみごとの支援の一つとして定着している。利用者家族へのアンケートの中から、ホームの理念に基づいた取組みに対しての高い評価の他、積極的な意見や提案も多く出されており、家族との交流が良好に保たれていることが感じられた。屋上にはミニ菜園やビオトープ(人工池)があり、身近に安全に外気に触れることができる。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	①垂水区のグループホーム連絡会が発足された。同業者間での交流(学習会等)を活用し、更なるサービス向上を目指している。②ケア記録書式等の見直しを実施し職員間での情報共有を更に高めた。また、ケアカンファレンスの頻度も1ヶ月毎の開催に変更し、ケアプランへの反映がより細くなされるようになった。
重点項目②	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:第三者4)
	フロア会議にて職員全員で意見を出し合い、各フロアごとにまとめた内容を管理者がチェックして仕上げた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:第三者4, 5, 6)
	事業所よりの近況報告の他、第三者評価結果の内容説明等、多くの議題を課題とした充足した会議を開催している。家族会を同日に開催するように設定しているので家族の出席者は多い。市町や地域包括センターとの連携にも力を入れており、担当職員の方々からの協力も得られている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	面会時や家族会で出された意見・要望を職員会議で検討し、サービス向上に繋げている。また、家族アンケートにおいても、医療との連携や制度面に対する質問や認知症ケアに関すること、高齢者の健康管理等、継続的なテーマとして取り上げる多くの貴重な意見が出されている。今後の取組みとして、職員や家族を対象とした学習会のテーマとしての活用に期待をしたい。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
	自治会への参加・多種のボランティアの受け入れ・世代間交流等、事業所の持つ多機能性を活かした取組みが実施されている。また、施設長は、認知症を正しく理解して頂くための活動(認知症サポーター養成研修講師)等も引き受け、地域の皆さんに理解を深める活動に尽力している。

2. 第三者評価結果表

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	在宅生活の延長として、「察し合い、歓び合い、折れ合い、合わす」という運営理念を掲げている。「地域の中で」という意味が、単に外部との接点ということだけに留まらず、地域から愛され必要とされるという、普遍的な意味での取り組みもなされている。	○	利用者の生活の質や尊厳に関して、更なる取組みを期待します。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者にとって、此処の事業所での生活が家で暮らすのと同じように普通に感じられる環境が提供されている。職員もそのことを意識し、家族や近隣との接点を大切にしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の自治会に加入しており、地域の行事にも積極的に参加し、婦人会やボランティアとの交流も行なわれている。また、地域包括支援センターの行事などにも会場を提供しており、地域の拠点としての役割も担っている。	○	地域の人々が参加しやすい学習会等の開催の取組みが期待されます。家族からのアンケートなども参考にし、より良い関係の構築に期待します。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	3F: 職員の日常会話の中で、情報の共有化が図れ、記録の再確認に役立った。4F: 個別の記録を確認することで、家族や地域との接点を意識付けすることができた。5F: 新規職員の導入にあたり、OJTの重要性が再確認できた。	○	今後も、職員全体で自己評価に取り組んでいただき、質の向上に期待をしたい。

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	議事録も分かり易くまとめられており、家族などへ内容の伝達も浸透している。会議で第三者評価結果の報告をし、サービスの改善課題等の助言を頂く機会にもなっている。利用者家族の参加者が多いのも特長となっている。		
6	9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所独自での判断に迷う場合等、市町村に相談をしている。地域包括支援センター職員には、毎回、運営推進会議に参加をして頂いており、助言を頂いている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	1ヶ月に1回のお便りで近況報告をしている。各ユニットごとに取り組み内容が異なっているが、最終的に事務局がまとめをしており、個別的な対応が出来る。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	エレベータ内に気付きBoxを設置したり等、意見や苦情などを出し易い工夫がされている。家族会などを通じて、意見の言いやすい環境作りを実施している。	○	第三者が仲立ちすることで多くの意見が出されます。今後も、家族との良い関係性を保ちながら、意見交換できるよう期待されます。家族とともに学ぶ学習会の開催も検討して頂きたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動が極力少なくなるように、雇用環境を含めた取組みをしている。退職者も時々ホームを訪問し、職員への引継ぎなどが行われている様子が伺われる。		


外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の質の向上を目的とした研修に取り組んでおり、法人としての積極的な支援がなされている。積極的に外部研修にも参加している。	○	今後の内部研修計画を立てる際に、家族アンケート内容等を参考に計画を作成することも検討されている。是非、家族の学びたい内容も組み込んだ内部研修の開催に期待をしたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	垂水区内のグループホームを対象に、リーダーや介護職員の参加できるネットワーク(連絡会)が立ち上げられた。相互の見学会なども含め、外部研修に力を入れた取り組みがなされている。	○	立地条件の良さや法人の理解もあって、このような取組みが可能になっています。他からの見学なども受け入れ、地域の中心的な施設となることが期待されます。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならに馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居決定前の体験入居の他、見学者も多い。施設概要を十分理解してもらえるように取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と利用者が寄り添える関係性を大切にしている。利用者から教えてもらうことや励まされることも多く、お互いに察知するようなコミュニケーションも構築されており、自然と個人の尊厳を大切にケアの実践がされている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の話をゆっくりと聴く機会を大切にしている。日曜日など入浴介助の無い日等、意識的に対話時間を取るようして個人の思いを聴きとるようにしている。	○	コミュニケーションの取りにくい利用者の場合、家族からの情報も重要になってきます。アセスメントはタイムリーに書き加えていく等を更に心がけてほしい。
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月カンファレンスやフロア会議が行われており、管理者としては職員全体が介護サービスの提供内容を理解できるような環境作りを目指している。特に、研修においても、その点を重視した取り組みがなされている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的(月に一回)なカンファレンス以外にも、必要に応じて個別にカンファレンスが行なわれ、家族との連携の重要性意識が職員に行き渡っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームとしての役割だけでなく、地域の拠点としての意識が浸透してきています。1階の保育園やデイサービス(通所介護)事業所など、多くの接点を持つことで多機能性が促進されている。	○	地域への発信機能を含め、今後の取り組みが大いに期待されます。

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には、在宅時からのかかりつけ医を大切にしている。ADLの低下などの場合は、家族との話し合いを持ち、近隣の医療機関への転医を検討している。遠方への受診の場合は、家族による協力をお願いしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	運営推進会議などを通じて、看取りへの対応を家族と話し合っている。なるべく最後まで対応するようにしているが、利用者や家族の状況により全ての対応が出来るとは言えず、医師、看護師、家族との話し合いで決めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に関する取扱いも含め、個別性の原理に則りながら対応している。日々、個人の尊厳や、プライバシーを損ねない対応を心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活の中で、規則正しい生活リズムを守ることにより、健康管理が行なえるという理念での対応がされている。外出時の着替えや、お化粧品も本人の希望を取りいれている。又、職員の細かな心配りや気づきが、利用者への生活支援の質に繋がってきている。		

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、昼食を中心とした献立が管理者によって作成されている。「自由献立」や「フリーメニュー」の日もあり、外食を取り入れる取組みもされている。行事の際には、体調に問題のない方の場合は、適度のアルコールも提供されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一日おきの入浴を基本とし、週に3日、柔軟に対応がされている。一人で入浴が可能な人の場合、自由な時間帯での入浴にも対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個人の生活歴から、その人の残存能力や参加できる内容を見つけ出し、生活の中で自信を持ち、喜びや楽しみが感じられるように支援している。サークル活動や買い物、外出、散歩、喫茶以外にも、家事や調理などにも参加してもらっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	体調や天候など確認した上で、職員の配置状況で支障のない場合、出来るだけ外出の機会を確保するようにされている。また、屋上庭園の活用をし、外気に触れて頂くように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	市街地の中にあり、外部の交通も多いため、エレベーター管理と玄関の施錠が行なわれている。	○	鍵をかけていることで、見過ごしてしまうケアの質についても検討をする機会を持って頂きたい。

外部評価	自己評価	評価項目	評価機関が確認した「取り組みの事実」 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組みを期待する項目を ○印で示す	事業所に対し「取り組みを期待する内容」 (すでに着手していることを含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人全体としての取り組みで、年に2回の避難訓練(昼間を想定)を行なっている。いざというとき、近隣の協力が得られることが必要と感じており、今後の課題としている。	○	日常的に近隣の人が入り出る関係を作り、事業所の中で生活する人が見える事が重要です。今後の取組みが期待されます。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分補給の記録は、個別にチェックがされている。特に、入浴後や外出の後には、水分補給をするように気をつけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分には、利用者が作成した壁画や利用者の写真が飾られている。家具の配置などにも気を使っており、利用者が過ごし易い雰囲気が感じられる。昼食後には、金魚に餌をあげている利用者や、屋上のビオトープで散歩を楽しむ利用者等がみられ、のどかな雰囲気が感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的には、馴染みのある家具などを持ち込んで生活してもらっている。家族の協力も得られ、各部屋による個別の対応がされている。		

※  は、重点項目。